

第 20 回 原子力建築運営委員会 議事録

日 時 : 平成 26 年 12 月 8 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所 : 日本建築学会 建築会館 302 会議室

出席者 (敬称略)

委員 : 北山 (主査 : 首都大)、中川 (幹事、中部電)、
瀧口 (東工大)、橘高 (首都大)、前田 (東北大)、楠 (東大)、菊地 (東京電)、
伏見 (関電)、梅木 (中部電)、川里 (原電)、斎藤 (北海道電)、尾形 (東北電)、
小竹 (北陸電)、阿比留 (中国電)、細川 (四電)、赤司 (九電)、武井 (電源開
発)、棟方 (原燃)、辻 (原安進)、今塚 (大林)、兼近 (鹿島)、三浦 (清水)、
小野 (大成)、神地 (竹中) 【下線 は欠席者】

オブザーバー : 和田 (中部電)、田中 (大林)、坂詰 (清水)、光木 (大成)、前中 (竹中)

- 資 料 : 20-0 第 20 回 原子力建築運営委員会議事次第
20-1 第 19 回 原子力建築運営委員会 議事録 (案)
20-2-1① 2014 年度の原子力建築運営委員会の検討体制
2015 年度の原子力建築運営委員会の検討体制
20-2-1② 2014 年度 原子力建築運営委員会 委員名簿 (案)
20-2-2 第 37-39 回 原子力関連学協会規格類協議会議題等
20-2-2 参考 第 37 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録
20-3-1① 2014 年度 耐震構造評価小委員会 裕度評価検討 WG 年間スケジ
ュール (案)
20-3-1② 耐震構造評価小委の活動計画 (案) との WG での議論の対応
20-3-2① 第 9 回原子力建築物維持管理小委員会 議事録
20-3-2② 第 10 回原子力建築物維持管理小委員会 議事録
20-3-2③ 原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説 改定案
20-3-2④ 『原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説 改定 (案)』
の送付および意見照会について (お願い)
20-3-2⑤ 「原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説」の改定スケジ
ュール (案)
20-3-4 構造委員会 原子力建築運営委員会 活動概況(2013~2014 年度)

議 事 :

1. 前回議事録の確認

中川幹事より資料 20-1 に基づき、第 19 回原子力建築小委員会議事録（案）の説明があった。10 その他において、「小委員会」を「運営委員会」に、「2016 年」を「2014 年」に修正することで承認された。

2. 原子力運営委員会の検討体制

中川幹事より資料 20-2-1②に基づき、各小委員会・WG の委員の交代の紹介があった。北山主査より 2015 年 3 月の構造本委員会にて変更内容が承認される見込みであることが報告された。

3. 原子力関連学協会規格類協議会について

梅木委員より資料 20-2-2 に基づき、原子力関連学協会規格類協議会の開催と議事録が紹介された。第 39 回原子力関連学協会規格類協議会においては、瀧口委員が出席することになった。

4. 耐震構造評価小委員会の活動報告について

梅木委員より資料 20-3-1①および 20-3-1②に基づき、2014 年度活動内容について報告された。

5. 原子力建築物維持管理小委員会の活動報告について

梅木委員および和田オブザーバより資料 20-3-2①～⑤に基づき、2014 年度活動内容について報告された。「原子力施設における建築物の維持管理指針・同解説 改定案」に関する審議を行い、以下にコメント内容をまとめる。

- ・本改定案を運営委員会で査読することになった（北山主査）。
- ・ホームページを参照にする場合においても、許諾が必要になるので留意すること。
- ・査読者の氏名は指針作成関係委員に掲載すること（今塚委員）。
- ・表 1-2 において「RCCV を除く」と示されているが、その理由を教えて欲しい（菊地委員）。→PCCV に関しては掲載に関する議論ができたが、RCCV については議論ができていないことによる。次回改定では対応したい（梅木委員）。
- ・付録 I.3 において、TG 架台のアルカリ骨材反応に関する新たな論文を加えるとしているが、構造本委員会の査読後に加えることはできないことを認識すること（北山主査）。
- ・付録 I.4 の破壊形状について、図に文献番号を記載すること（瀧口委員）。
- ・付録 II について、本文と付録 II の内容との関係が容易に理解できる前文を入れ、位置づけを明確にすること（北山主査）。

- ・付録Ⅱについて、許諾の都合上、写真に出典を明記すること（今塚委員）。
 - ・資料 20-3-2④において、査読結果については E-mail に特定する必要はない。郵送や Fax などでも可能であることが理解できる内容にすること（瀧口委員）。
5. 原子力建築運営委員会活動概況について
- 梅木委員より資料 20-4 に基づき、活動概況について報告された。
- ・原子力建築物の寿命について、「建築物の寿命は建屋内機器の寿命やその他の要因により決まることが多い」、「寿命は維持管理等の建築技術によって制御すべきものである」という主旨で修文を行うこと（北山主査）。
6. その他
- ・次回の運営委員会は、以下の予定で行う。
 - 日時：2015年3月2日（月）14：00～16：00
 - 場所：日本建築学会 会議室（予定）

以上